

「地球」という 大きな部屋の インテリアデザイン

臨時増刊号

「これって本当に自然なの？」



「これって本当に自然なの？」



自然と遊ぶ、
みんなて眠る

自然と遊ぶ、みんなて眠る
自然と遊ぶ、みんなて眠る
自然と遊ぶ、みんなて眠る

自然と遊ぶ、みんなて眠る
自然と遊ぶ、みんなて眠る
自然と遊ぶ、みんなて眠る

「これって本当に自然なの？」



「これって本当に自然なの？」

02,000

今、自然が危ない！でも、自然が解らない！

地球をひとつの部屋と考えると、そのインテリアを刷新して、94年目となりました。何十年で済んだ環境に目をむけ、解決策を模索して来ました。しかし、今回は、私たち人類によって、良くも悪くも、自然について考え直すことになりました。アウトラームにとめない自然や自然環境などの言葉をもっと広げます。あまりに身近な言葉すぎて見過ごしてしまいがちです。でも雑誌や旅行のガイドブックである記事には、「これって本当に自然なの？」という疑問を感じることがあります。

元来「自然」という言葉は

「天然のままに人為の加わらないさま、あるがままのさま。山川・草木・海など、人類がそこで生まれ、生活してきた場。特に、人が自分たちの生活の便宜からの生命の手を届けていない物。また、人類の力を超えた力を示す各種現象。」

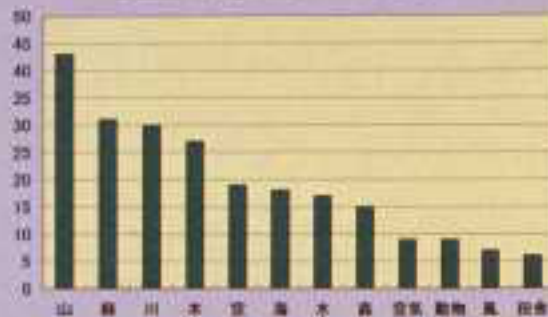
広辞苑より

つまり季節の移り変わり、第一級の自然（一歩も自然）を指す言葉の源です。しかし、地球の自然が、人類によって、これほどまでに破壊されてしまった現在、本当にこの「自然」という言葉は、どのような意味を持っているのでしょうか。

街角で100人に調査

日本人にとって、「自然」とは

自然という言葉からイメージするもの



このイメージを絵で表現するとこの絵になります。

絵のように自然と「緑」を中心とした風景をイメージする人が多いようです。でも、この絵は何か日本の「風景画」とも違うような、異国風景に似ていませんか。



そこで再度で1000人に「自然」という言葉からイメージするものを1人につき5個書き取り調査しました。結果は次のとおりです。

「自然」という言葉に対し、「山」「林」「川」「水」など緑々の風景をイメージする人が多かったです。その他「海」「空」「鳥」など水々イメージしたもの、「動物」「虫」「植物」など生き物をイメージしたものがありました。中には「エコロジー」「エッセイ」等時代を反映したものもあります。

私たちは、新緑の緑、空気の緑など、都市部でも比較的身近に「緑」を身近に感じます。しかし、これらの「緑」は共感を得ていても、多くの生物を育むことではなく、天然素材とは根本的に違うと言えます。よって私たちのイメージにある自然像は「自然」という言葉の本質とちがっていないのでしょうか。

人の手が加わったものは「自然」といえないのですか。

こんな例があります。保護する必要がある植物種を天然記念物などで指定し、自然地には立ち入り禁止し、厳密に保護したつもりであったのに、むしろそのためにその種の衰退を招いてしまったものです。レッドデータブック記載種のエヒメアヤメの自然地にその類葉を採りまわることがあります。



青紫色の華やかな色花の姿を絶かせるエヒメアヤメは、もともとは中国大陸東北部や朝鮮半島に分布する北方系の植物です。西日本が分布の南限にあたり、中国地方、四国、九州の若干の帯に少しずつ分布が北限し、いくつかの自然史が国の天然記念物に指定されています。それぞれの自然地は、高度な人為的干渉によって維持されているアサツキの雑林やスサキの草原などの二次的自然の生育場所です。全量採り取られる自然地は、かつては天然記念物に指定されていましたが、スサキの雑林が行われなくなったためにササキが繁茂して、エヒメアヤメは絶滅してしまいました。



聖山の風景



林床にも多くの植物

また、仏道が聖山と呼んでいるところは、手つかずの自然ではありません。人の暮らしのすぐそばにあり、利用されながら守られてきたごく身近な自然と呼べるものです。

近年の農業の衰退や燃料革命により聖山に人々が入らなくなりました。これはより自然な環境へと戻っていくのだから喜ばしいことではないか、と見えられるかもしれませんが、しかし、日本の農耕文化とともにあった聖山が多種多様な生物種にとってなくてはならない環境であり、私達人間にとってもかけがえのない身近な自然であるという観点としての事実があるのです。



温暖化か、森に竹が侵入



竹の林床は不老の地

「人間が自然を造り出せる」

前出二つの事例は「人間が自然を造り出せる」ということを表しています。神聖な自然観の考えは、自然というものの神聖性、従来の自然観を中心とするのではなく、生物の多様性を共に持つことにより説明する事ができます。人間がなくなることで、絶滅して行く植物や、登山がしやすい植栽林へ変質して行く事は、予察の誤差により、生物の多様性が失われる事があります。

生物の多様性も次第に

自然保護の価値観

オウゴン山



山頂

サンクチャー



自然保護

もちろん、自然保護の価値観としてオーグン山は自然保護の価値観も重要視されています。サンクチャーやオウゴン山は自然保護の価値観も重要視されています。しかし、この「生物の多様性を求める」考えは、もっと具体的であると考えています。

私たちが自然に集まる「自然」を享受しようとするとき、これらの価値観は必ずしも価値観を共有するとは限りません。

両者は共存できる！

早くも実践！！



森林が豊かになり、鳥が棲むようになる。



鳥が棲むようになる。



自然保護に力を入れています。

「50年森」は、八百廿四郎にある人合林でした。近年、農家の廃業や高齢化により人手がはいらなくなり、かつての豊かな森は荒廃の一途をたどっています。

考え出したことは、森を守るための「50年森」です。自然保護を中心とした自然保護をすすめる、クラスを員の参加もあり森は驚くほど豊かになりました。

現在はアークツリーハウスを設け、子どもたちの憩いの場になりました。さらに私たちは、この森をかつての「登山」のように、もっと生物の多様な森にしていきたいと考えています。

生物の多様な森へ！



森と人の調和のために



私たちは保護しています。